



真剣なまなざしで歌を歌う広野中の生徒たち

さわやか歌声 復興に力



町民らが会話や買い物を楽しんだひろの復興市

子どもたち思い込め

ひろの童謡まつり音楽祭

心の復興へ向け14日に広野町中央体育館で開かれた「第18回ひろの童謡まつり音楽祭」では、未来を担う子どもたちが真剣なまなざしで爽やかな歌声を響かせた。

広野中の松本萌花さん（3年）は「震災前は」人に言われて歌う感じだった。しかし、今は復興のために行きたいことをやっていこうという思いでステージに立った」と話した。同町の児童が避難生活で

復興市もにぎわい

「ひろの復興市」元気です！広野復興プロジェクトも14日、広野町中央体育館前で開かれ、にぎわいをみせた。北海道や岐阜県産の野菜、静岡県産のお茶、干物、町内産の野菜、「ひろの復興Tシャツ」などを販売。音楽祭に訪れた町民らが、会話や買い物を楽しみ和やかな時間を過ごした。

通った埼玉県三郷市の瑞木小、静岡県御殿場市で活動するJFAアカデミー福島、南相馬市のMJCAアンサンブルも出演し、復興を指す町を歌で応援した。昨年1学期まで瑞木小に通っていた大和田有希さん（中央台東小6年）も会場を訪れ、瑞木小の友人と久しぶりに再会。「遠いのに来てくれてすごいわしい。来年は広野中生として出演したい」と話した。

「福島民友」
2012.10.16 5頁